



令和7年3月15日
第891号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区五番町五
九段南会館 電話 03-3261-5521
電話 03-3261-5522
〒100-0001 東京都千代田区五番町五
九段南会館 電話 03-3261-5521
電話 03-3261-5522

第32回 令和7年度事業計画を承認 終戦80周年記念事業を実施

2月18日、第32回理事会が開催され、令和7年度活動方針・事業計画が承認された。終戦80年の節目に遺族会の社会的意義を示すため、各種記念事業を企画し、組織の拡充強化を図る体験者の記憶を次世代とともに伝える平和の語り部事業の具体的な広報戦略の展開が審議され、承認された。

水落敬業会長は冒頭の挨拶で、「戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝える平和の語り部事業はまさに英霊顕彰であり、遺族会の語り部が政府から認められ、予算に計上されたことを誇りに思い、事業を推進しなければならぬ」と話し、令和8年度予算での平和の語り部事業のさらなる予算拡充を訴えた。

平和の語り部推進加速 第4ブロック合同研修会開催

平和の語り部事業の普及・拡大、永続的な実施を旨とした企画を説明し、話し合う第4ブロック合同研修会が、徳島市内において開催され、7県が参加した。(天候により鳥根、鳥取両県は欠席)

冒頭水落敬業本会会長は、語り部は遺族の社会的責務で今後の遺族会の主眼と挨拶。続いて坂千代宮彦徳島県遺族会会長は、青年部と共に出来ることを重ね、事業を推進しようと挨拶した。



語り部事業の更なる推進、予算拡充を訴える水落会長
= 2月18日、九段会館テラスで

本会は終戦80周年を事業周知の年とし、行政・

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

第27回参院選へ支援強化 日本遺族政治連盟

日本遺族政治連盟は、2月18日、理事会を九段会館テラスにおいて開催した。同会議では、まず令和7年度歳入歳出予算案を審議し了承を得た後、令和7年自民党員獲得目標について審議し、終戦80年の節目の時機を逃さず本連盟の要望を実現するため重要な新規党員獲得を決定した。

また、令和7年度は予算が大幅に増額され、予算額に見合った活動が求められることから、各支部で最低36回の語り部事業の実施を目標とすることとした。

さらに今夏行われる「第27回参院議員通常選挙」における本連盟推薦の選挙区選出候補者並びに比例区候補者について、今後の後援会活動の具体策や支援体制について審議され承認された。

次いで白木健治平政町危機管理監の日本地雷処理を支援する会(MAS)のバオでの活動についての講話では、戦時中に投下された多くの地雷による環境破壊を防ぎ、平和で美しい海を守るため

の懸命な取り組みが紹介された。その後は、学校、祈念館を中心とした語り部活動の展開、報道機関との連携(岡山県)、追悼式講話型、実演披露とグループ座談会の実施(広島県)、小学校教員OBと青年部がタイアップした講話

る子供たちにも共感を生むものとなっている。次に白木健治平政町危機管理監の日本地雷処理を支援する会(MAS)のバオでの活動についての講話では、戦時中に投下された多くの地雷による環境破壊を防ぎ、平和で美しい海を守るため

の懸命な取り組みが紹介された。その後は、学校、祈念館を中心とした語り部活動の展開、報道機関との連携(岡山県)、追悼式講話型、実演披露とグループ座談会の実施(広島県)、小学校教員OBと青年部がタイアップした講話

る子供たちにも共感を生むものとなっている。次に白木健治平政町危機管理監の日本地雷処理を支援する会(MAS)のバオでの活動についての講話では、戦時中に投下された多くの地雷による環境破壊を防ぎ、平和で美しい海を守るため

の懸命な取り組みが紹介された。その後は、学校、祈念館を中心とした語り部活動の展開、報道機関との連携(岡山県)、追悼式講話型、実演披露とグループ座談会の実施(広島県)、小学校教員OBと青年部がタイアップした講話

る子供たちにも共感を生むものとなっている。次に白木健治平政町危機管理監の日本地雷処理を支援する会(MAS)のバオでの活動についての講話では、戦時中に投下された多くの地雷による環境破壊を防ぎ、平和で美しい海を守るため

の懸命な取り組みが紹介された。その後は、学校、祈念館を中心とした語り部活動の展開、報道機関との連携(岡山県)、追悼式講話型、実演披露とグループ座談会の実施(広島県)、小学校教員OBと青年部がタイアップした講話

る子供たちにも共感を生むものとなっている。次に白木健治平政町危機管理監の日本地雷処理を支援する会(MAS)のバオでの活動についての講話では、戦時中に投下された多くの地雷による環境破壊を防ぎ、平和で美しい海を守るため

の懸命な取り組みが紹介された。その後は、学校、祈念館を中心とした語り部活動の展開、報道機関との連携(岡山県)、追悼式講話型、実演披露とグループ座談会の実施(広島県)、小学校教員OBと青年部がタイアップした講話

声なき声
天皇陛下は去る2月23日、65歳の誕生日を迎えられた。記者会見では、戦後80年の節目に際し、「日本において80年間、平和の時代が続いていることを有難いことと思ふ」と述べられた。戦後生まれの人々が大半を占める今の時代、戦争の歴史との向き合い方、その役割についてという記者からの問いに、「戦争の記憶が薄れようとしている今日、戦争を体験した世代から戦争を知らない世代に、悲惨な体験や歴史が伝えられていくことが大切である。(中略)そして、戦中・戦後の苦難を体験した方々が高齢になり、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっている中、国内各地で若い人たちが戦争を知ろうとして、次の世代の語り部として育ち、戦中・戦後の苦難を語り継ぐ活動が進められていることは、(中略)一層意義深いものとなっている」との認識を示された。▼本年は遺族会の覚悟を問われる一年となる。天皇陛下の御心に応えるためにも、戦没者遺族に課せられた社会的責務として、体験者や戦後生まれの青年部が手を携えて「平和の語り部事業」を推進しなければならぬ。当事業を次世代に伝承できるか、正に真価が問われる一年、全国各地から皆で戦争の悲慘さ、平和の尊さを語り継ぎましょう。(M)

さくら咲く靖國神社へ

期間限定
夜桜詣
3月27日(木)～29日(土)
各日午後6時～8時

靖國神社 東京都千代田区九段北 3-1-1 電話:03-3261-8326

終戦八十年戦跡写真展

今も残る英霊の足跡
令和7年 3月1日(土)～12月7日(日)

靖國神社 遊就館
【休館日】 令和7年6月24日(火)～26日(木)
【開館時間】 午前9時～午後4時30分(入館は閉館の30分前まで)
【拝観料】 大人300円 / 大学生200円 / 中学・高校生100円
※小学生以下及び崇敬奉賛会会員・常設展拝観者無料

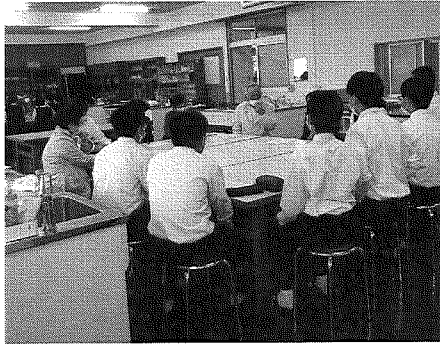
遊就館 YUSHUKAN MUSEUM

戦争の記憶伝承、後継者育成

終戦80周年記念事業を企画

2月18日の理事会で了承された終戦80周年記念事業は、社会的課題である「戦争の記憶の伝承」に応える団体と示す広報向けの各種企画である。平和の語り部事業を通して社会に奉仕する姿勢を前面に打ち出し、遺族会の社会的意義を高めると共に同事業の更なる普及、拡大に取り組む中で青年部の育成、強化に挑戦する。

令和7年度は遺族会の「べく、各種記念事業を企画語り部を周知する年とす」、同事業の意義をPRする



中学生と平和の語り部「対話型」を実施
=宮崎県で

る広報として実施する。内容は以下の通り。

- (1) 本部企画(体験者が語り、次世代と共に考える遺族会の語り部)
「全国各地で戦争と平和について考えよう」
・戦争体験者(当時の話を聞いてみよう)
・内容:小・中・高等学校で実施されている総合的学習の時間の利用に向けて、全国で左記取組を実施する。
・期間:令和7年4月以降継続的に(本部は3月から毎月1回)
(2) 本部企画(戦没者遺児による慰霊友好親善事業「洋上慰霊」)
「海に鎮まる30万余の御霊を想い、記憶の伝承を考えよう!!」
・内容:戦没者の遺児が、海に鎮まる30万余の御霊に慰霊を捧げ、旧戦域の方々と友好親善を図る慰霊友好親善事業の中で、戦争の記憶を伝承する「平和の語り部事業」の意義を学び、活動意欲を醸成する。
・期間:令和7年6月1日(日)~11日(水)
(3) 本部企画(沖繩平和の日)
・期間:令和7年6月29日(日) 14時
(4) 本部企画(平和の語り部大会)
「体験者の記憶を次世代へ伝承しよう!!」
・体験者が語り、次世代と共に考える平和の語り部大会!!
・内容:体験者の遺族と戦後生まれの青年部が共に記憶の伝承に取り組む遺族会の語り部を披露し、戦争の記憶の伝承の意味を考へる。
・期日:令和7年6月29日(日) 14時
(5) 本部企画(47都道府3階真珠(予定))

平和の語り部事業

栃木県が上京研修会開催

2月9日、栃木県遺族連合会は上京研修会を開催した。昨年12月に結成した青年部育成を主眼とした青年部育成と、靖国神社参拝と平和の語り部研修が内容となる。高野青年部長を中心とした計画された。朝8時に皇国神社を出发し、バス車中において県事務局より語り部の説明がなされ、更にさくし、市岡崎清治氏より遺骨収集事業等が報告された。靖国神社参拝後、靖国会館において平和の語り部研修会が行われた。はじめに本部担当者より遺族会の結成、活動の歴史と終戦80周年活動の事業の具体的展開を説明、行政・報道双方へのPR、追悼式を活用した講話・対話・体験型の実施が示された。

近松市における活動の経緯を説明。復興記念館で学びを深め、来場者への説明を担うことになり、語り部として地域の学校での講話活動にも積極的に参加すると共に、県市に要望を重ね委託事業として次世代の語り部育成にのりだし、本年次世代の語り部を送り出した。また国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と被爆者のAI語り部を試作した地元企業より声がかかり、語り部AIを制作、復興記念館に置かれていたことを報告した。



研修会に参加した大学生、社会人からの感想を聞く大石功本部語り部推進委員=2月9日、靖国神社で

参加した大学生、社会人からは「戦争を知らない世代として、今後学びを深め、思いを繋ぎたい」「戦没者、遺族の思いを継承したい」との感想が聞かれた。当日は地元下野新聞社も取材に訪れ、後日紙面に掲載された。同席は3月2日に県全体の語り部研修を実施した。

島根県で青年部結成

全国47支部で組織化

2月16日、島根県遺族連合会は、青年部設立総会ならびに平和の語り部研修会を開催した。まずは日本遺族会青年部結成までを振り返り、平成24年組織の後継者育成の必要性が女性部から提言され、全国各支部で戦没者の孫、ひ孫、姪等をつくる青年部の組織化が広がり、平成

29年、全国22支部をもって日本遺族会青年部を結成した。その後、全国で努力が続けられ、昨年までに46支部で結成となっていた。島根県では、本会に先駆け、平成28年に県下支部において青年部が結成された。しかし、県会前において5支部の結成が必

要とされたため、各支部に粘り強く働きかけ、終戦80年の節目に県青年部結成となった。部員数は約400人を数える。設立総会の冒頭、挨拶に立った石原道夫会長は、「試行錯誤の末、

ち待った青年部設立に辿り着いた」と語り、多くの関係者に謝辞を述べた。続いて青年部設立の経緯を説明した須山昇副会長は「青年部として執行部に入った私の使命は県青年部結成」と語った。その後挨拶に立った小林林青年部長は、比高で「亡くなった祖父に触れ、これからは祖父のことをもっと父に尋ね、慰霊事業に積極的に参加し、仲間と呼びかけ、遺族会

の活動を守り、新たな時代へ推し進めたい」と決意を表明した。研修会では中岡誠副会長の司会で、本会水落敷栄会長より遺族会の歴史、英霊顕彰、処遇改善運動、語り部の重要性が示された。その後、本部担当者より終戦80周年の語り部事業の具体的展開を説明。語り部を系統的に実施するため次世代の必要性が説明された。また、地元における語り部の取組み(斐川町、

洗心懇談会

靖国神社等、十四団体で構成する洗心懇談会が令和7年度の定例会が2月12日、日本遺族会主催で九段会館テラスにて開催され、本会からは盛川英重事務局長が出席した。関係団体を代表して盛川局長が挨拶をした後、各団体の活動状況等について説明、意見交換等が行われた。

本年は終戦80年の節目となるため、各団体においても、今後多くの記念行事が予定されることと確認された。

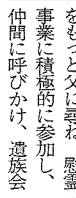
▼大阪府 2月6日
戦後80年事業・第60回沖繩「なごの塔」慰霊追悼式(60人)

▼栃木県 2月9日
栃木県遺族連合会・平和の語り部研修会(43人)

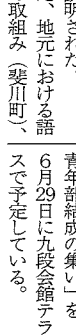
▼富山県 2月28日
平和の語り部研修会



青年部結成にあたり決意を語る小林林青年部長=2月16日、松江市で



青年部結成にあたり決意を語る小林林青年部長=2月16日、松江市で



青年部結成にあたり決意を語る小林林青年部長=2月16日、松江市で

友好事業 慰霊親善

南方の地で父に語りかける

西部ニューギニア、タイで慰霊

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施している戦没者遺児による慰霊友好親善事業で、西部ニューギニア、タイ地域を相次いで実施した。全国から戦没者遺児、青年部の付添者を含め総勢26人が参加し、亡き父が辿った所縁の地を巡り、慰霊追悼するとともに小学校を訪ねて学用品等を贈呈し、生徒や学校関係者と交流を深めた。

西部ニューギニアは2月3日から12日、タイは2月20日から28日の期間で実施し、各訪問団員は初日に東京・九段会館テラスに集合して結団式を行い、靖国神社で旅の安全を祈願した後、父が眠る所縁の地へとそれぞれ出発した。

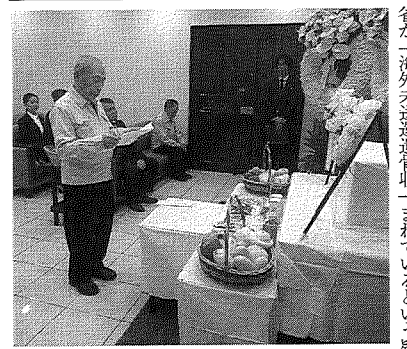
5兵站病院跡、ジャヤプラが叶い、この地が平和と友好の場であらうと思いをこねる。同夜、ビアク観光見物表ソリド小学校の先生生徒を招待して懇談会を開催し、生徒たちが伝統的な踊りや歌を披露するなど、親しく交流し楽しいひと時を過ごした。



母に付き添い参加した孫が、センタニ湖を臨み追悼文を読む=2月6日、ジャヤプラ・ネタルで

日本戦没者遺骨収集推進協会は、硫黄島、フィリピン、パラオ諸島に令和6年度遺骨収集派遣団を派遣し、硫黄島で33柱、フィリピンで5柱、パラオ諸島で5柱を送還した。千鳥ヶ淵戦没者墓苑で遺骨引渡式(硫黄島、フィリピンは2月13日、パラオ諸島は2月27日)が挙行され、出迎えた遺族代表、国会議員、関係団体代表等が見守る中、

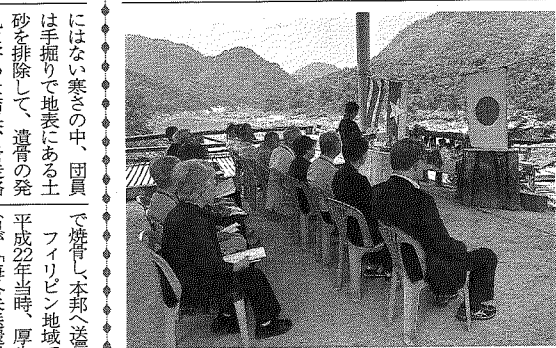
戦没者遺骨43柱が帰還 遺族の手でフィリピン等から 日本戦没者遺骨収集推進協会は、硫黄島、フィリピン、パラオ諸島に令和6年度遺骨収集派遣団を派遣し、硫黄島で33柱、フィリピンで5柱、パラオ諸島で5柱を送還した。



焼骨した遺骨の前で追悼文を読む団員 = 2月10日、フィリピン・ルソン島で

本誌学科の高校生15人と日本に関心のある中学3年生45人の歓迎を受けた。日本の文化に触れてもらうために将棋やけん玉、

日本遺族会への賛助金のお礼 本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。 賛助者名(敬称略) カタナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等) 山下裕子、根本征子、



サルウィン河を挟んで、父が眠るミャンマーの地を見渡しての慰霊祭=2月23日、タイ・バーンメーサムラップで

戦没者遺骨収集事業 令和7年度参加登録始まる 日本遺族会では、令和7年度戦没者遺骨収集事業への参加希望者の事前登録を行っている。孫、ひ孫、甥、姪等の青年部も広く登録願いたい。申込登録要項は次のとおり。

令和7年度慰霊友好親善事業 日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の令和7年度事業計画概要がこのほど固まった。

戦没しているが、ミャンマーは政情が不安定で入国が叶わなため、隣国のタイで父を慰霊追悼した。訪問団は2月23日、メーホーンから車で片道5時間かけてミャンマーとの国境の町バーンメーサムラップに赴き、慰霊祭を行った。サルウィン河の向こうに広がる

父が眠るミャンマーの地に向かって、ひとりひとりが追悼のこぼれを涙み上げ、語りかけ、慰霊祭の終わりに、「お父さま、さよなら」と呼び掛けた。 24日、チェンマイで、原田優在(チェンマイ)日本総領事主催の昼食会に招かれた訪問団は、会食後、バーンカートウィターヤコム校を訪問し、日

26日、カンチャナブリのために日本軍鉄道隊が建てた慰霊塔の前で、ビルマ、タイ全戦没者追悼式を挙行し、戦没者の冥福を祈った。

参加者募集

沖繩平和祈願慰霊大行進

平和の語り部体験型へ参加を

日本遺族会では、沖縄県遺族連合会と共催で実施する「沖繩平和祈願慰霊大行進」の参加者を募集している。...

「沖繩平和祈願慰霊大行進」へは、全戦域の戦没者が参加可能である。...

ココニ遺書ヲ認ム

海軍少佐 杉崎直

昭和二十年三月三十一日

西九州方面にて戦死 大分県直入郡竹田町出身 二十六歳

十月二十五日午前 在支米空軍大率シテ皇土ニ乘来 大村地区ニ爆撃ヲ加フ...

天皇の御國護りて大空に 二十有五の命さげむ 体当たり今日は吾身の花見かな

【令和七年三月靖国神社頭掲示】 愛しきものへ

語り部育成の取組み

静岡、富山で研修会開催

2月14日、静岡県遺族会は研修会を開催。冒頭挨拶で大石功会長は「母の壮絶な人生を忘れることは出来ない」と語り、...

大分県で日章旗返還

元米兵の孫から遺族へ

戦没者等の遺留品返還に伴う調査事業で、OB ONサンエティから本会に調査依頼があった日章旗の持ち主が大分県で判明し、日章旗を保管していた元米兵の孫が来日...

九段短歌

選者 村田信昌

いそいそと出かける慰霊の旅三度目のベリリユ近くなりたり 終戦後父亡き暮し八十年過ぐ平和に感謝す父の命日...

起床して父の遺影がすぐ浮かぶ額も知らずに八十年 愛知県 近藤 淳子 滋賀県 雨森 貴子

参加者に配布 其々記入し、発表する形式とした。参加者からは主に、「召集状を受けた家族の光景」「父から名付けられた名前」「母を助けたため田畑の手伝いや新聞配達...」農家の担い手として進歩を語った...

寒さの時は越えたとはいえ本格的な春の訪れが待ち遠しい昨今です。さて、今年には終戦八十年、短歌投稿者の多くが八十を越えられた方々ばかりです。...

元米兵の曾祖父の遺品として旗を受け継いだアメリカ・ジョージア州在住のひ孫のクリス・ドーシーさんは、日本に来て遺族へ直接手渡したいという強い意志で、返還式のために来日した。



日章旗返還式 The Japanese National Flag Repatriation Ceremony

工藤さんは「旗が返ってきた初めて(叔父が)帰ってきたという気持ちがある」と涙ながらに「生きた証が戻った」と涙ながらにドーシーさんに感謝の気持ちを伝えた。...



自分史作成シートを通して思いを語る参加者 = 2月28日、富山市で